

柏木教会月報

4月号

東京都新宿区北新宿3-1-18 ☎03-3368-2156 www.church.ne.jp/kashiwagi/

復活の主との出会い

ヨハネによる福音書 二二章一～一四節

牧師 富永 慶司

さて、陸に上がってみると、炭火が起こしてあつた。その上に魚がのせてあり、パンもあつた。

(九節)

主イエスのご復活は、お弟子たちの再出発、再召命のときもありました。復活の主は、お弟子たちにどのようにして新しい命を備えられたのでしょうか。

それは、彼らが主イエスを失い、自分たちの存在根拠も使命もわからなくなり、昔の職業であった漁師に戻つて、漁をしている時に起きました。しかし、三節の後半に、「その夜は何も取れなかつた」とあります。主イエスを見失つたままの生活、それがどれほど一生懸命になされる業でも、復活の主から離れてはすべては空しいのです。「わたしを離れては、あなたがたは何もできない」(ヨハネ一五・五)とあるとおりです。

しかし、その空しい営みをじつと見ておられる方がいました。その方が、お弟子たちに言葉をかけられます。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ」(六節)。お弟子たちが、そのとおりにすると、おびただしい魚が取れたというのです。

この出来事は、実はルカによる福音書五章一節以下の出来事を思い起こさせる、と多くの方が指摘します。つ

まり、お弟子たちが主イエスに従うようになった原点、主イエスの召命の出来事が、今や、ここで再現され、繰り返されているのだ、というのです。復活の主は、こうしてご自分が生きておられることを示すとともに、お弟子たちを再びご自分の弟子として召して、神の国の漁師としての使命を、思い起させたもうたのです。

わたしたちも、かつて主イエスに召されて洗礼を受けた者たちです。あのときの喜びや感激を思い起こします。しかし、その後、どういう事情によつてか、その初めの愛と情熱も失せ、この時のお弟子たち同様、主イエスから遠く離れて、主イエスの召命を裏切るような生活をしているかもしれません。そのようなわたしたちにも、復活の主イエスは、「わたしがあなたがたを召した時のことを思い起こしなさい。そして、再びわたしに従つて来なさい」と招いておられるのです。

最後に、九節を見て終わります。「さて、陸に上がってみると、炭火が起こしてあつた。その上に魚がのせてあり、パンもあつた。」

復活の主が備えたもう朝の食卓、これは聖餐の食卓でなくて、何でしようか。ルカによる福音書二四章には、同じように、復活の主はエマオにおいてお弟子たちとともに食事をなさつた、そのとき、お弟子たちの目が開け、復活の主の信仰を得た、と記されています。

復活の主イエスは、今日もなお、繰り返し、この礼拝にわたしたちを招き、み言葉と聖餐によつて、命を得るものとなるように招いておられます。その招きにお応えして、召された時のことを思い起こしつつ、罪の許しと神の国の永遠の命の道を進んでまいりたいと思います。